

可茂農林事務所の普及活動状況 令和6年8月26日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■御嵩町 シェアリング農機の活用促進

可茂農林事務所では、御嵩町内の4農業法人、御嵩町、JAめぐみの、農機メーカー、(一社)岐阜県農業会議、県関係機関とともに令和4・5年度に農林水産省のスマート農業実証プロジェクトに参画し、スマート農業技術の現地への普及活動に取り組んできた。

今年度は、事業で法人が取得した乗用管理機のシェアリング活用について支援を行っており、4月には4法人の利用希望を取りまとめた利用計画と利用に関して取り決めた規程の作成を支援した。実際の利用にあたっては、作物の生育・管理状況や病害虫・雑草の発生状況、降雨による順延など臨機応変な対応が必要であり、コミュニケーションアプリを活用した調整が行われ、7月末までの実績は利用日数25日、利用面積47haと、水稻・大豆の除草剤散布や病害虫防除を中心に拡大している。生産者からも「高性能農機のシェアリングによりコスト低減や省力化につながっている」などの声があり、シェアリングへの取り組みに前向きである。

農林事務所では今後、生産者からの意見を聞き取りながら、シェアリング活用の更なる推進や地域へのスマート農業の普及に取り組んでいく。

(地域支援第二係)



【農機のシェアリング活用】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■大豆 緑肥の有効性を検証中

白川町では、集落営農組織が町内豆腐加工業者へ大豆の契約出荷を行っており、契約数量を達成する目標がある。大豆栽培における排水性の改善と地力増進による単収向上を目的に、マメ科緑肥作物（ヘアリーベッチ）を活用した実証ほを2つの集落営農法人で設置した。3月中旬に動力散布機でヘアリーベッチ種子（5kg/10a）播種し、6月中旬の大豆播種前にすき込みを行った。

農林事務所はJAとともに実証ほの大豆生育調査を行っており、8月下旬現在（着莢期～粒肥大期）、生育は良好である。今後は収量調査を行い、大豆栽培における緑肥の有効性について検証していく。

(地域支援第二係)



【順調に生育する大豆実証ほ場】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■堂上蜂屋柿 病害虫防除作業、お試し委託（無人防除機の活用）

堂上蜂屋柿振興会の会員にとって、夏場の防除作業が栽培管理作業の中で大きな負担になっている。

振興会では今年度、労働負担軽減とスマート農機の活用を推進するため病害虫防除作業の委託についてアンケートを実施、「試しに防除を委託してみたい」と回答した会員2名の柿園の防除作業を、無人防



【無人防除機による作業を見守る会員】

除機を使って実施することとした。

作業は8月7日に行われ、委託を希望した会員も防除作業に立ち会われた。無人防除機は、作業が楽で薬液もしっかりかかっていることが確認され、たいへん満足されていた。なお、今回はJA職員が防除作業を担っており、今後は作業受委託ができるような体制づくりやオペレーターを確保していく必要がある。

(地域支援第一係)

■ナシ 天敵を利用した化学農薬使用削減への取り組み

美濃加茂市山之上地域のナシの出荷は昨年とほぼ同時期の7月下旬から始まり、8月13日頃からは主力品種「幸水」の出荷が始まった。今年は、高温・乾燥による影響でやや小玉傾向ではあるものの、消費者からは甘いと好評を得ている。

ナシ栽培では、ハダニ類の多発が問題になることが多く、化学農薬を使用した定期的な防除が通常となっている。そこで、岐阜県では全国農業システム化研究会実証事業を活用し、化学農薬の使用低減に向けた技術として天敵を利用した栽培の実証を行っている。

使用する天敵はミヤコカブリダニで、6月に放飼した。その後の調査の結果、ハダニの発生は慣行区と比較すると多くなっているものの、被害は許容範囲に抑えられ、天敵の効果が得られていることを確認した。

農林事務所では、今後も調査研究を継続し、天敵利用の防除体系の確立に向けて取り組んでいく。



【収穫適期のナシ】



【天敵が入っている袋】

(園芸産地支援係)

■水稻 今年の米荷受け作業が始まる（管内各乾燥調製施設）

管内では、8月下旬から水稻収穫作業が始まり、JA各地域の乾燥調製施設も順次稼働を開始した。

今年も出穂期前後に猛暑日が連続する気象状況が続いており、早生品種をはじめ高温障害の発生が懸念される中、JA八百津ライスセンターでは、8月14日から荷受けを開始し、8月20日現在、八百津町平坦部のあきたこまち、コシヒカリ、ひとめぼれ約36トンを荷受けした。

同センター担当者によると、注意報が発表され懸念されたカメムシ類による斑点米は、現時点では特に目立っていない一方、乳白米は目立つ印象があるとのことで、今後も高温障害の発生が懸念される。

他の施設では、可児、みのかも両カントリーエレベータが8月20日、23日から、七宗ライスセンターは8月21日からそれぞれ荷受けが開始され、管内各地域で荷受けが本格化する中、農林事務所では、JAとの連携のもと、今後の高温障害や斑点米カメムシ類の影響について特に注視するとともに、高品質な米生産に向け、出穂後1か月程度の入水維持や適期刈り取りの実施についての呼びかけを継続的に実施する。

(地域支援第一係)



【荷受作業の様子（8/20 八百津町）】